

(語学研究部)

12月11日に、多賀城市市民活動サポートセンターで行われた「たがさぼのクリスマス雑貨市2021」に参加しました。

2004年のスマトラ島沖地震で20万人以上の死者・行方不明者という大きな被害があった被災地で、日本の手織り「さをり織り」が被災者の心のケアを目的に導入されました。語学研究部ではそれらの商品を販売しながら、雑貨市を訪れた方に防災について改めて意識してもらうことができました。

また、利益は多賀城市国際交流協会の募金とともに、ミャンマーに寄付します。昨年度、ミャンマー出身の技能実習生と交流する機会をいただきました。現在、ミャンマーは軍事クーデターで市民が苦しんでいるため、募金と寄付金ははその市民への炊き出し支援になるように使われる予定です。



きれいな色合いです。手織りのため一つひとつ異なる柄になっています。



多賀城市長さんにも説明させていただきました

#### 【参加した生徒の感想】

僕にとって今回の雑貨市は、人々の復興を願う気持ちから生まれたツナミクラフトの商品をより多くの人に知ってもらった上に、多賀城市のパン工房やグッズ製作所などの多種多様な団体の方々が取り組んでいる活動について知ることができた貴重な機会でした。ツナミクラフトのような活動はまだまだ周知されていないと思うので、これからも自分たちの活動を通して広めていきたいです。

(2年 玉川淳之介)

今回の活動では、これまでとは違う経験ができました。普段の交流活動では外国の文化に

ついて考えたり、教えてもらったりすることが多かったのですが、今回のように商品について理解して、それを説明し販売することは、とても難しいと感じました。これからの活動の中では学ぶことについてもっと深く理解するように意識して、自分の知識とし人に伝えられるようにしたいです。

(2年 小野遙生)

販売中に、興味を持ってきてくれた方々に、どんな商品かを説明する場面が必ず出てきます。それが私たちにとっても大切な場面だったと思います。実際に、文化祭でも、フェアトレード商品の販売をしてきましたが、誰にでもわかるように説明する自信はありませんでした。なんとなく、自分がわかる程度に理解しているだけで、実はあいまいだったと今になって思います。

今回は、ツナミクラフトを全く知らない人に説明しないといけなかったのも、まずは自分が商品について理解することを大切にしました。そうすることで、自分たちが持っていた異文化に対する知識も増え、自分たちの力で、世界の役に立てている、と言う実感を得ることができました。これからも、世界のために私たち語学研究部ができることをどんどん実行していき、その一つ一つをしっかりと理解して活動していこうと思います。

(2年 三浦誠鈴)

クリスマス雑貨市に参加して、お客さんへの商品の説明を簡潔に伝えることについて考えることができました。「これは何ですか？」とお客さんに伝える時に、最初は、商品の説明に書いてあったことをできるだけ伝えようとしていましたが、それではお客さんが飽きてしまうので、自分の言葉で置き換え、伝える時は商品を指してお客さんの顔を見ること、周りの音にかき消されないように、声をハキハキと出すことを意識しました。お客さんの興味が少しでも傾いて商品を購入してくれた時は嬉しかったです。反省点は、自ら積極的にお客さんに声をかけることです。声がかけれそうなチャンスを逃してしまっていたので、「さをり織りについてご存じですか？」と声をかけて見るのが良いなと思いました。この経験を今後の発表や来年の文化祭で役立てていきたいです。

(2年 児玉紅花)